

稲門 映像人・文化人ネットワーク
特別記念講演「変革の時代にこそチャンスをつかむ」
次 第

日 時：2018年10月3日(水) 16:00～17:30(開場 15:30)

会 場：大隈記念講堂 大講堂 (東京都新宿区戸塚町 1-104)

進 行：・バイオリン演奏：「無伴奏バイオリン パルティータ第2番ニ短調」よりシャコンヌ

齋藤 アンジュ 玉藻

・代表あいさつ

信井 文夫 (稲門映像人・文化人ネットワーク世話人会 代表 / 株式会社映像新聞社 会長)

・特別講演「変革の時代にこそチャンスをつかむ」

ゴードン・スミス (全米放送事業者協会 会長)

・パネルディスカッション

[パネリスト]

ゴードン・スミス (全米放送事業者協会 会長)

児野 昭彦 (日本放送協会 専務理事・技師長)

河合 隆史 (早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 教授)

[モデレーター]

音 好宏 (上智大学 文学部 新聞学科 教授)

注 意 事 項

- 本日の講演会では、プレスの方以外の撮影、録音、録画は禁止とさせていただきます。
- 講演中は携帯電話の電源をお切りになるか、マナーモードに設定のうえ、通話をご遠慮ください。
- 講演では同時通訳を実施いたします。お座席のひじ掛け部分に設置されております「同時通訳システム」に、受付でお渡ししたイヤホンを差し込んでご使用ください。同時通訳は、1chが日本語、2chが英語となっておりますので、ご利用の際には、液晶部分に「1ch」または「2ch」と表示されていることをご確認ください。
- 使用したイヤホンは、講演終了後に外して必ず受付までご返却ください。

登壇者略歴



ゴードン・スミス (全米放送事業者協会 会長)

米国オレゴン州ベンドルトン出身。プリガム・ヤング大学卒業、サウスウエスタン大学ロー・スクール修了。ニューメキシコ州、アリゾナ州で弁護士として活動しているほか、大手法律事務所のワシントン支部のシニアアドバイザーを務めている。また、1997年から2009年にかけて、オレゴン州選出の共和党上院議員として政治活動に携わる。現在は全米放送事業者協会の会長を務めている。



河合 隆史 (早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 教授)

早稲田大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程修了後に、早稲田大学 国際情報通信研究センター 専任講師、同大学院 国際情報通信研究科 助教授、同准教授、同教授等を務めたほか、ヘルシンキ大学 行動科学部及び行動科学研究所の訪問教授等を経て現職。専門は人間工学で、立体映像 (3D) やバーチャルリアリティ、ウェアラブルコンピュータなど、次世代メディアとヒトのインタラクションに関する研究に従事しており、生体計測を中心とした評価研究に加え、その知見や手法を活用したコンテンツ制作も行っている。



児野 昭彦 (日本放送協会 専務理事・技師長)

東京都出身。1977年に日本放送協会 (NHK) に入局し、技術本部 (現技術局) において無線設備や回線センターのシステム開発を行ったほか、埼玉県川口市のNHKアーカイブス設立に基本構想から携わる。その後、放送技術局長、技術局長を歴任したのち、株式会社NHKメディアテクノロジーで上席執行役員、代表取締役社長を務め、2017年より現職。技術畑が長く、2020年の東京五輪をにらんだ超超高精細4K・8K実用放送、番組のネット同時配信の実施等に取り組んでいる。



音 好宏 (上智大学 文学部 新聞学科 教授)

北海道出身。上智大学大学院 博士後期課程満期退学後に、日本民間放送連盟研究所所員、上智大学 文学部 新聞学科 専任講師、同助教授、コロンビア大学 客員教授等を経て現職。専門はメディア論であり、研究分野は、メディア政策、メディア産業論、メディア・マーケティング、社会変動とメディア、情報社会論など多岐に渡る。特に電気通信技術の発展がメディア・システムとメディア利用行動にもたらす影響過程について研究を行っている。



斎藤 アンジュ 玉藻 (バイオリニスト)

東京生まれ。パリで学び、2004年にドイツで開催された「インターナショナルゾリステンシリーズ」に最年少で抜擢されてオールパッハプログラムでリサイタルデビューを果たし、パッハアルヒーフ (パッハの最高研究機関) より「とくにシャコンヌの演奏は絶品」と評された。また、日本人バイオリニストとして初めてドイツのパッハフェスティバルに出演したほか、2008年には大御所ピアニスト、イヴ・アンリ氏らとプロジェクト「RYU」を結成し、禅の精神も取り入れた新しいクラシック音楽開発に努めている。

NAB(National Association of Broadcasters)

全米放送事業者協会

National Association of Broadcasters は略称「NAB(エヌエービー)」として、広く親しまれている。日本では、「全米放送事業者協会」とも称している。

NAB(エヌエービー)は米国のテレビ 500 社、ラジオ 9,000 社を擁する団体で、約 80 年の歴史があり、世界最古にして最大の放送事業者団体である。米国には日本の NHK に相当する組織は無く、日本の一般社団法人日本民間放送連盟に相当する。

ワシントン DC に本部を構え、自社ビルに専従スタッフ、会長以下約 200 名を擁している。

この NAB(エヌエービー)が毎年 4 月にラスベガスで開催する NAB(エヌエービー) Show(以前は国際放送機器展と訳されていた)は、放送・映像・情報関連の世界最大のショーである。

展示会には、日本の主要メーカーを初め、世界から約 1,800 社が出展し、セッションは約 300 種のテーマで世界のリーダーが講演する。

来場者は世界中から 10 万人以上、日本からも約 3,000 人が毎年参加している。因みに会場の規模、催事の内容は幕張メッセの約 5 倍相当に値する。

日本の大手主要メーカーはこのショーで新製品を発表するのが通例となっている。

日本民間放送連盟は、当時の氏家(NTV 社長)会長時代に、全国民放各社々長 40 人数名でワシントン DC を訪れ、交流会を開催したことがある。

また、民放発足 50 周年大会を東京国際フォーラムで開催した時は、壇上の来賓として天皇皇后両陛下と共に、総理大臣不在で代理郵政大臣と、NHK 会長、並びに米国 NAB(エヌエービー)当時のエディー・フリッツ会長が列席され、それぞれ挨拶された。

次に、現 NAB(エヌエービー)会長ゴードン・スミス氏は、東日本大震災発生後の 2011 年 11 月、震災の見舞いのため来日し、同月 16 日幕張メッセで開催の Inter BEE (国際放送機器展) で基調講演をし、併せて NHK・民放各社のトップ、並びに機器メーカー関係者とも会談した。